

但馬朝來郡産スミレ屬

福田 菊市

筆者は昨年春より本郡内に自生するスミレ屬に就いて調査して見た。春の花として山野何処を歩いてもよく目に付く花ではあるが、いざ調査して見ると案外に種類は少ない。今後精査して完成を期したいと思うが一応どんなものが自生しているか其の概略が判明したので筆者の採品に基いて書いて見る。本屬採集上の御参考になれば幸である。なお採集標本の同定には京大の村田先生の御手を煩わした事一再ならず、茲に深く感謝の意を表す。

Viola (TOURN) L. スミレ屬

- a. 葉は根生し、地上茎は伸長しない。
 - b. 葉は復生。
 - c. 葉は3出掌状に分裂。……エイザンスミレ
 - c. 葉は5出掌状に分裂。……ナンザンスミレ
 - b. 葉は単生。
 - c. 花期の葉は披針形又は卵状披針形又は長三角形。
 - d. 花は紅紫色又は淡紅紫色。
 - e. 全株無毛、側弁常に無毛。シハイスミレ
 - e. 葉面、葉柄微毛。側弁有毛。極稀に無毛。……ヒナスミレ
 - d. 花は紅紫色でない。
 - e. 葉柄に翼無し。
 - f. 花は青紫色。……ナガバノスミレサイシン
 - f. 花は黒紫色。或は濃紫色。
 - g. 全株無毛。側弁有毛。ヒメスミレ
 - g. 全株有毛。側弁無毛。ノジスミレ
 - e. 葉柄に翼有り。
 - f. 花は黒紫色。側弁有毛。
 - g. 全株無毛。……ケナシスミレ
 - g. 葉柄、花梗中部以下有毛。スミレ
 - c. 花期の葉は円形、或は卵形、或は卵円形。
 - d. 花は帯紅濃紫色。
 - e. 全株無毛。……オカスミレ
 - e. 全株有毛。……アカネスミレ
 - d. 花は帯紅濃紫色でない。
 - e. 葉柄、葉面有毛。
 - f. 花は青紫色。花後の葉は長大となる。……コスミレ
 - f. 花は白色、或は白質。
 - g. 花期の葉は円心形……フモトスミレ
 - g. 花期の葉は卵円形。……ケマルバスミレ
- e. 全株殆んど無毛。
 - f. 花は白色、地下に白き匍枝有。……シコクスミレ
- a. 葉は根生、莖生、地上茎を伸長する。
 - b. 全株有毛。莖は地上を匍匐する。花は白質淡紫紫。……アオイスミレ
 - b. 全株無毛。莖は直生、斜上生。
 - c. 花は白色。側弁有毛。
 - b. 葉は腎円形。……ツボスミレ
 - b. 葉は新月形。特に濕地生。……アギスミレ
 - c. 花は青紫色。側弁無毛。
 - d. 莖上部にて葉は長卵形、広披針形に変化する。……ナガバノタチツボスミレ
 - d. 莖上部にても葉の変化なし。
 - e. 葉は卵形。大きさは長径で1~3 cm。……タチツボスミレ
 - e. 葉は卵円形、腎円形。大きさは長径で3~5 cm。……オオタチツボスミレ

V. phalacrocarpoides MAKINO. オカスミレ

山麓向陽の乾地に生ず。1株~2株宛点生する。花期4月上旬~下旬。葉は卵形、淡綠色、上下面共同色。花は濃紅紫色で美しい。花梗長く葉より超出。距は細丸形で頗る長く、帯紅紫色。側弁は有毛。本郡では稀で産量も少ない。

V. Conilii FR. et SAV. アカネスミレ

ヲカスミレの近似種。生育地も同じ。形態もよく似ているが、本種は全株有毛で形も大きい。花梗は葉と同長。稀ではあるが前種より多産する。花期4月中旬~下旬。

V. Takedana MAKINO ヒナスミレ

山地生。平地では見ない。樹陰にも乾地にも生じる。花期は早く3月下旬~4月上旬。葉は長卵披針形、深心脚。葉柄、花梗は紅紫色を呈する。花は淡紅色が多く紅紫色条がある。葉柄、花梗上部、葉面に微毛がある。花後は大株となり葉も大形となる。

V. violacea MAKINO. シハイスミレ

山野生。普通に産する。花期は長く3月下旬~4月下旬。全株無毛。葉は長卵形、卵状披針形。厚質、深綠色で白斑がある、裏面紅紫色。花は淡紅紫色、紅紫色等濃淡種々で濃紅紫色条がある。

V. sbikokiana MAKINO. シコクスミレ

山地樹陰稍濕地生。花期は4月中旬~下旬。葉は卵円

形、深心脚。鮮緑の葉形整然として美しい。花期に於て通常2葉出る。殆んど無毛であるが極々僅かに下面主脈上に粗毛がある。花は純白色に紅紫色条がある。花に著しい芳香がある。地下に白い匍枝縦横に引いて、先端に新苗を生じる。その故か自生地では大群落をなす。本種は関東以西、四国、九州に分布するもので本郡でも珍稀種である。葉形、花色、芳香等觀賞価値がある。

V. Okuboi MAKINO. ケマルバスマミレ

山地稍湿地生。花期4月上旬～中旬。稍稀。名前はケマルバでも毛茸が密生しているものでは無く、葉柄、花梗、葉面等に微毛がある程度。葉は卵円形。花は白色紫条があり距のみ淡紫色に染つている。多花性。側弁は有毛のものとは無毛のものとなり、側弁有毛のものは全体の毛茸も多い。混生せず群落を異にしている。

V. pumilio W. BECK. フモトスマミレ

山地の稍乾いた陽地で採集した。花期は遅く4月下旬～5月上旬。極稀である。全体頗る小形種で僅々5cm位。葉は円形、卵円形。厚質上面暗色、下面紅紫色を呈する。葉面、葉柄上部に微毛あり。花は白色小形、濃紫色条がある。側弁の毛茸は多い。距は太短かく紅紫色を呈する。

V. mandshurica W. BECK. ケナシスマミレ

原野生。普通に産する。花期は4月中旬～5月上旬。全株無毛。花は濃紫黒色。側弁は甚だ多毛。スマミレと混生している。葉は披針形鈍頭。深紫色。基脚は個体に依つて戟形、觀形等種々で葉柄には翼がある。

V. mandshurica W. BECK. var. ciliata

NAKAI. スマミレ

原野生。極普通。花期4月中旬～5月上旬。外形前種と全く同じであるが、葉柄、花梗の中部以下、幼葉に白色毛茸が密生している点が異なる。本種が世に云うスマミレの代表花となつているものである。

V. minor MAKINO. ヒメスマミレ

原野生。殊に人家附近に見られるもので山地には無い。花期4月上旬～中旬。本郡では稀。葉は長三角状で基脚は拡つて箭形をなし急に狭くなつて尖る。稍厚質、深緑色、下面は汚紫色を呈するものがある。花は濃紫色。側弁有毛。ヒメスマミレの名にふさわしく、スマミレに比して花も小形、花弁も狭長盛花時には上部2片が著しく反捲する。花梗は葉より超出。

V. yedoensis MAKINO. ノジスマミレ

原野生。花期4月中旬～5月上旬。本郡では比較的稀。非常に毛茸多き種でヒロードの触感がある。葉は披針形、淡緑色往々葉裏紫染する。花は濃紫色、赤紫色。外形はスマミレによく似ているが、側弁が全く無毛

なる故容易に區別出来る。

V. pyenophylla FR. et SAV. コスマミレ

原野生。最も普通に産する。花期は早く3月下旬～4月上旬。花期の葉は小形で長卵形、基脚戟形或は浅心脚。葉面に微毛がある。花後は広三角状となり葉柄に小翼が出来て長大となる。花は淡青紫色或は青紫色。側弁有毛。

V. Bisseti MAXIM. ナガバノスマミレサイシン

深山生で樹陰に生育する。花期は3月下旬～4月上旬。本郡には極稀。大形のスマミレで一見スマミレとは思はれぬ草状をなしている。全株無毛。葉は大形卵状披針形、葉柄、花梗共に暗紫色を呈する。根茎の状態がカンアオイ属に似ている。花は青紫色。

V. eizanensis MAKINO. エイザンスマミレ・

エソスマミレ

山地樹下湿地生。花期は4月上旬～下旬。個体数は少ないが郡内諸々に産する。葉が掌状分裂した本属中の変りもの。花は稍厚質の白色で紫条があり側弁有毛。白色と云つても純白では無く極く淡く紫色がかつている。花卉の裏面も淡い紫色に染つている。葉は略々3出掌状で、花後の葉は著しく大となつて益々3出掌状が判然として来る。

V. chaerophylloides W. BECK. ナンザンス

ミレ・ヒゴスマミレ

前種と葉は同形で両種の區別には慎重を要する。然しエイザンスマミレの3出掌状に対して本種は更に細裂した5出掌状を呈する事、生育地が前者の陰湿の樹下に対して山地上部の乾地である事等で区別されると思う。本種の花には芳香があると聞いていたが筆者の採集したものの中には芳香は無かつた。芳香と云つても前記シコクスミレの様な強いものではなく、有つても極くかすかなものと思はれる。花期は4月上旬～下旬。

V. nipponica MAXIM. アオイスミレ・ヒナブキ

山野生。最も普通。花期3月下旬～4月中旬。全株有毛。葉は腎円形、淡緑色。地を匍う匍枝を盛んに出す。花は白質で稍青紫色を帯びる。側弁無毛。花後の葉は甚だ大となる。

V. grproceras A. GRAY. タチツボスマミレ

山野に最も普通に産する。花期も早く3月下旬～4月中旬。全株無毛。直生或は斜上生の地上茎を出す。花は淡青紫色。側弁無毛。葉は卵形。卵円形、心脚。葉脈は往々暗紫色を呈する事がある。本種の採品中に葉面に微毛を有するものもあつた。

V. ovato-oblonga MAKINO. ナガバノタチ

ツボスマミレ

山野に最も普通の種。花期は前種より稍遅く4月上

旬~下旬。地上茎を直生し地を匍う匍枝を出さない。根葉は卵円形をしているが、茎上部の葉は卵状披針形となる。地上茎を出さぬ時期にはタチツボスミレと見誤る事があるが、本種の葉は主脈、小脈、葉の裏面等が紅紫色を呈する。花色も前種に比して少しく紅色を帯びている様である。

V. verecunda A. GRAY. ツボスミレ

山野に最も普通。花期は4月中旬~5月上旬。稍湿地を好んで生育する。乾地には少ない。大体の形はアオイスミレによく似ているが、全株無毛。平滑。葉も厚質。花期の葉は深緑色で稍蠟光沢がある。斜上茎を伸長する。花は白色。比較的小形で紫染あり。側弁有毛。葉は腎円形心脚。

V. Kusanoana MAKINO. オオタチツボスミレ

山地生。稍陰湿地を好む。全株壮大で30cm。地上茎を直生し。地面を匍はない。花は淡紅紫色或は淡青紫色。側弁無毛。茎上部にのみ花梗を出し、根生花梗は出さぬ。葉は大体卵円形で葉脈は稍顯著である。花期は短かく4月上旬~中旬である。普通に産する。

V. semilunaris W. BECK. アギスミレ

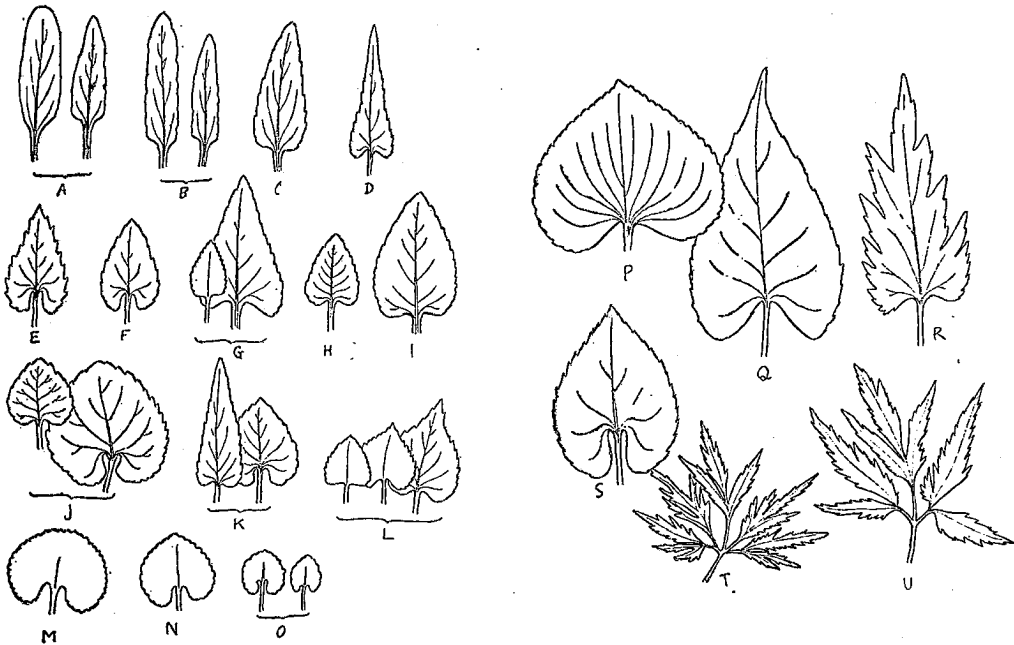
原野山間の溼地生、乾地には生じない。花期は遅く5月中旬~下旬まで開花する。形花はツボスミレと同形。葉は卵円形、基脚箭形新月状を呈する。地上茎を直生する。ツボスミレに比して全体大形軟弱で葉も淡緑色で稍膜質をなす。本郡では稍稀。

ヒメキクバスミレ?

本種は花を付けない不完全なものを唯2株のみ採集した、本郡の稀少種で葉形に特徴がある。長三角状をなし、上面暗緑色、葉脈に沿ふて白斑があり下面はシハイスミレの如く紅紫色を呈し、厚質、不齊の缺刻がある。全株無毛。花期は4月下旬頃と思はれる。エイザンスミレの花後に出た葉の中央裂片に此の葉形が現はれる点から見れば、エイザンスミレとシハイスミレの雑種と考へられる。採品は栽培しているので今後の研究に依つて確かめたいと思つている。

(1956.2.10)

参考文献 荒木英一氏 三丹地方産スミレ属植物：野外博物 第3巻、第1号



- | | | |
|-----------|----------------|----------------|
| A. ケナシスミレ | H. オカスミレ | O. フモトスミレ |
| B. スミレ | I. アカネスミレ | P. オオタチツボスミレ |
| C. ノジスミレ | J. ケマルバスミレ | Q. ナガバノスミレサイシン |
| D. ヒメスミレ | K. ナガバノタチツボスミレ | R. ヒメキクバスミレ |
| E. ヒナスミレ | L. タチツボスミレ | S. シコクスミレ |
| F. シハイスミレ | M. アオイスミレ | T. ナンザンスミレ |
| G. コスミレ | N. ツボスミレ | U. エイザンスミレ |